



写真:長田洋平/アフロスポーツ

たいと考えていた時、ソーシャルワーカーの方からパラスポーツを紹介され、そこで当時のパラバドミントンの日本代表選手の動きに感激したことがきっかけです。

知事:子どもの頃の経験や周りの励ましは大切ですね。福岡県では今、将来のトップアスリートを育てるため、「福岡県タレント発掘事業」に取り組んでいます。子どもたちにさまざまな競技を経験してもらい、その子たちに合った競技を見いだす取り組みです。

林:素晴らしい取り組みですね。自分に合った競技を見つける良いきっかけになると思います。その中で、「この競技楽しい!」と感じた時は、その感覚を大事にしてほしいですね。また、別の競技を経験することでいろんな体の使い方を学ぶこともできると思うので、ぜひさまざまな競技を楽しんで取り組んでほしいです。

梶原:パラスポーツは競技人口が少ないので、子どもたちがスポーツに触れるきっかけがあるとパラスポーツの普及にもつながります。僕もスポーツを通じて夢を持つことができたので、ぜひ子どもたちにも新たな刺激を発見してほしいと思います。

知事:私も、福岡県の未来を拓き、つくっていくのは「人」であり、子どもたちだと思っています。スポーツをはじめ、さまざまな分野で次代を担う「人財」の育成に力を入れていきます。

共生社会の実現に向けて

知事:次のパリ大会も近いですね。意気込みをお聞かせください。

林:まずは目の前の皇后杯とWリーグで優勝すること、そして2月の世界選手権予選でメンバーに選ばれること、そこで結果を残すことを目標にしています。その先に、成長した自分がまたオリンピックで活躍できたらいいなと思っています。

梶原:まずは出場を目標に。そして、シングルス2連覇を目指します。今回、ダブルスは銅メダルだったので、次は出場する種目全てで金メダルを獲得できるよう励みたいと思います。

知事:お二人のお話を伺って私も元気と勇気をいただきました。コロナ禍の今こそ、スポーツの力で福岡県を元気にしたいと考えています。オリンピック・パラリンピックを目指す子どもたちをはじめ、県民の皆さまにメッセージを

福岡県知事 服部 誠太郎(はっとり せいたろう)



お願いします。

林:周りの人に感謝しながら、努力を忘れずに一生懸命頑張っていたら、評価してくれる人はきっといると思います。私もそうやってオリンピックに出場できたので、子どもたちにもぜひ自分を信じて頑張してほしいですね。

梶原:今回の大会でパラスポーツに興味を持っていただけたらうれしいです。辛いこともたくさんあると思うけど、努力をしたり、仲間に頼ったりして乗り越えたら、その経験が必ず生きてくるので、夢を持って、夢に向かって一途に努力してほしいと思います。少しでも興味を持ったら、気軽に近くのスポーツセンターに足を運んでみてください。一緒にパラスポーツ界を盛り上げていきましょう。

知事:お二人の言葉は、スポーツに限らず、生きていく上で本当に真をついたものだと思います。今回の大会を通じて、多様性と調和の重要性を大いに学ばせていただきました。この2つの大会の本当のレガシーは、これからの共生社会を実現していくことではないでしょうか。県としてもさまざまな取り組みを行ってまいります。林選手と梶原選手には、ぜひ力を貸していただきたい。今後ますますの活躍を期待しています。本日はありがとうございました。



写真:森田直樹/アフロスポーツ

梶原 大暉(かじわら だいき)選手

福岡市生まれ。高校1年生のときパラバドミントンに出会い競技を始める。現在は日本体育大学に在学。東京2020パラリンピックではシングルス決勝で、これまで6戦全敗だった世界ランキング1位のキム・ジョンジュン選手を破り、金メダルを獲得した。

